

杉村廣藏博士主要著作目録

解題

故杉村廣藏博士の著書並びに、現在活字となつて残つて居り、且つ著書と等しく博士の學問・思想・人格を知る上に不朽の價値ありと思はれる論文・講演その他を蒐めて著作目録の作成を試みました。この目録作成にあつて、内地の新聞雜誌に發表された論稿は、論文集に輯録の有無にかゝはりなく、細大洩らさず記載するやうに努めました。他方上海に於ける刊行物(上海毎日、大陸新報、商工會議所々報、同月報、同提要その他)並びに貿易統制會と交易營團の定期刊行物に發表された分は、一切これを割愛いたしました。けだし後者の發行部數の少く讀者範圍の狭きこと、それ等に發表された論稿の重要なものは悉く、論文集「支那の現實と日本」、「支那・上海の經濟的諸相」、及び「營團經濟の倫理」に輯録しあるためであります。編者の不敏と不注意に由り思はぬ蒐録洩れ無きを保し難きながら、重大なる見落しはなきものと信じます。大正七年に始まり昭和二十三年に終る三十一年間の博士の著作活動を跡づけたこの目録を通して、博士のたゆまざる學問への精進と烈々たる愛國心を知り、哲學者の曇らざる眼光と逞ましき實踐意欲を感じ、高邁なる精神と偉大な風格を偲びて、哀惜の情堪え難きものがあります。目録作成にあたり大學圖書館の書庫入庫の便を與へられ數々御協力下さつた村松教授、劇務の寸暇を割つて助力された朝日新聞社の大森繁雄氏はじめ關係諸賢の御厚情にあつく感謝申し上げます。(序に、目録に記載せる年月日は凡べて發表の年月日で、執筆の時を示すも

杉村廣藏博士主要著作目録

のではありません。)

次に、本號所載の「左右田博士の學者的風格」は、杉村博士が講壇を去られて滿十年目、昭和二十一年の奇しくも日も同じ五月九日に、「經濟哲學」再開の開講の辭として述べられたものを、愛嬢の淨書されたものであります。滿堂の學生を感動させたこの開講の辭は、博士が生前に「左右田哲學解說」と題する著書を計畫され、その中に收めるべく豫定し居られたものであります。今回かかる形式にて本號に掲載する機會を得たことは意義深きものありと思はれます。これによつて杉村博士の學生時代の精進の姿を見ることができると共に、世界的水準をめざして懸命の努力をつづけてゐた當時の一橋の學風を偲ぶことができます。その學風あの傳統いま何處に在りや。堂々たる當時の學風を回想して、現在の我々も勇氣を失ふことなく、その學風を復活して我々の傳統とすべきではなからうか。徒に卑下し追従するの態度を棄て、頭を高く擧げて、世界的水準を目標に大精進すべき秋ではなからうか。

「西洋經濟學史序説」は、昭和二十一年末昭和書房企劃の「新文化大學講義録」(假稱)の講座「西洋經濟學史」のために執筆されたもので、この序説のみ書かれて完結をみず、原稿のまま今日に至つたものであります。講義録の性質上表現が平易によつて居りますが、内容は専門的學術論文で、短かきながら博士の独自の經濟學史論が遺憾なく展開されてゐます。文中には從來活字にして發表されなかつた主張の若干も見出され、博士の講筵に列したことのない人々の多くにあるひは博士の新しい説の印象を與へるかも知れません。しかし昭和八年より同十年の三年間に大學で講義された博士の「經濟學史」に既に述べられたものであつて、我々にとつてはこれによつて博士の獨創的な偉大な學史體系を再び髣髴し得て、まことになつかしきものがあります。恰かも希臘彫刻のトルソの前に在る如き思ひが

たします。

最後に、「思索」の今秋九月號に掲載される予定の絶筆遺稿(著作目録参照)は、博士が逝去の三日前まで書きつけて居られたもので、未完成の、文字通りの絶筆であることを附記して置きます。(二三・八・一二)

山田長夫記

著作目録

- 文化としての一橋 大正七年(一九一八年) 一橋會雜誌第一四二號
- 企業經濟の方法論的研究 大正八年(一九一九年) 第一四九號
- 私經濟學の本質 大正十年(一九二一年) 一橋 第九號
- 經濟學に於ける經營概念の方法論的研究 大正十一年(一九二二年) 商學研究 第二卷第一號
- 倫理思想家としてのアダム・スミス 大正十二年(一九二三年) 第三卷第一號
- 福田博士の「アダム・スミス論」 大正十三年(一九二四年) 第三卷第三號
- 個別的倫理法則と歴史的世界觀 大正十四年(一九二五年) 第四卷第二號
- フランツ・シュタウデインガー 大正十四年(一九二五年) 「新カント派の社會主義觀」所載
- カール・フォールレンダー 大正十四年(一九二五年) 第四卷第二號
- 經濟學的認識の價值性質 大正十五年(一九二六年) 商學研究 第五卷第二號
- 大學論 大正十五年(一九二六年) 一橋新聞 第二九號
- 「經濟學認識論」「經濟學方法論」「經濟哲學」 同文館「哲學大辭書」追加

杉村廣藏博士主要著作目録

一橋論叢 第二十卷 第三・四號

- カール・メンガー「社會科學方法論」の研究
大正十五年（一九二六年） 商學研究 第六卷第一號
- 先驗心理主義の理論とその社會哲學
昭和三年（一九二八年） " 第八卷第三號
- 川村豐郎著「判斷力批判の研究」
" " " 一橋新聞 第七四號
- 守株的傾向を恐る
" " " 第八二號
- エネルゲティク
昭和四年（一九二九年） " 第九〇號
- 一つの報告書
" " " 第九四號
- 金子鷹之助の近著「社會哲學史研究」
" " " 九五號
- 政策學と經營學
昭和六年（一九三一年） " 第一二六號
- ミルと左右田と大西
" " " 大學と社會 第二號
- 左右田喜一郎全集編纂者序文
" " " 左右田喜一郎全集 第一卷
- 經濟學に學派はない
" " " 一橋新聞 第一三八號
- 禪と團體生活（講演要旨）
" " " 一橋如意園「鐵如意」所載
- 川村豐郎君を悼む
" " " 一橋新聞 第一四五號
- 價値論史
" " " 岩波講座「哲學」
- 哲學と經濟學との交渉
昭和七年（一九三二年） " " "
- ドイツ經濟學と「經營學」
" " " 東京商大研究年報（經濟學研究）(1)
- 經營學の二勞作
" " " 一橋新聞 第一六四號
- 文化價値主義の經濟哲學 一二九頁
昭和八年（一九三三年） 改造社經濟學全集第九卷「經濟哲學」
- 「貨幣中心論」に對する修正の試み
" " " 福田德三博士追憶記念論文集「經濟學研究」

經濟性の問題

哲學と歴史學との交渉

ゾムバルト「三つの經濟學」——その邦譯書

價值不安の社會

高木友三郎氏の近著「生の經濟哲學」

新カント派の社會理想

綜合試驗制を樹立せよ

日本經濟學會での感想

カント 序文八頁本文二〇八頁

經濟學の方法及び歴史

石階をのぼる

經濟哲學の基本問題

第一刷(序文八頁本文三〇七頁)、第二刷(序文六頁本文三〇七頁)以下昭和十六年八月第七刷までに一〇、〇〇〇部發行、昭和二十三年二月二十五日理想社版(二六九頁)發行

左右田博士の胸像を迎へて

學位論

學問研究のために

ザーリン「國民經濟學史」とジイド、リスト「經濟學史」の邦譯

丸谷喜市著「經濟生活の本質及び現家形態」

杉村廣藏博士主要著作目録

昭和八年(一九三三年) 東京商大研究年報(經濟學研究)②

" " " " 岩波講座「哲學」

" " " " 一橋新聞 第一七二號

" " " " 第一七四號

" " " " 第一七七號

昭和九年(一九三四年) 理想特輯號「社會改造の諸學說」

" " " " 一橋新聞 第一八九號

昭和十年(一九三五年) " 第二〇一號

" " " " 三省堂 五月十日發行

" " " " 「經濟學研究の葉」第一章

" " " " 神戸商大新聞

" " " " 岩波書店 九月五日發行

昭和十年(一九三五年) 一橋新聞 第二一四號

" " " " 東京朝日新聞 九月十六、七、八日

" " " " 中央公論十月號

" " " " 一橋新聞 第二一九號

" " " " 東京商大研究年報(經濟學研究)④

一橋論叢 第二十卷 第三・四號

經濟哲學の生成と領域

哲學と科學

カール・メンガー著作集第三卷と邦譯「社會科學方法論」

不連續性の思想様式

學者は如何に生くべきか

カール・メンガーの全集を読む

經濟的正義を考へる

現代日本の政治心理

日本文化認識論への感想

經濟哲學

昭和十二年を回顧して

左右田喜一郎の世界觀

アカデミズムの本質

全體主義か自由主義か

政治の優位、經濟の優位

社會科學

經濟哲學通論

昭和十年（一九三五年）

昭和十一年（一九三六年）

" " " "

" " " "

" " " "

昭和十二年（一九三七年）

" " " "

" " " "

" " " "

" " " "

" " " "

昭和十三年（一九三八年）

" " " "

" " " "

" " " "

" " " "

" " " "

中央公論 十二月號

所載新聞名不明

一橋新聞 第二二八號

中央公論 九月號

饗宴 十月號

東京大學「經濟論集」三月號

早稻田大學新聞（三月）

政界往來 四月號

中央公論 七月號

理想社「新哲學講座」

神戸商大新聞

科學ペン 一月號

" " " "

理想 三月號

知性 六月號

日本評論社「現代哲學辭典」

理想社 六月十五日發行

初版序文六頁本文二三八頁 昭和十八年第十五刷までに二〇、〇〇〇部發行、昭和十九年四月二十日改訂版序文二頁本文一八六頁（「現代の經濟哲學」を骨子とす）三、〇〇〇部 昭和二十二年二月初版の重版發行

租界と法幣への幻想	昭和十四年(一九三九年)	文藝春秋現地報告	七月號
現下の學者的様相	"	日本評論	八月號
上海の現状を語る	"	東京日々新聞	八月十三、四、五日
新事態に徹するの途	"	文藝春秋現地報告	九月號
現地を重視せよ	"	改造	十月號
事變處理と現地感情	"	文藝春秋現地報告	十二月號
資源主義の經濟倫理	"	知性	十二月號
大學、社會、學生	昭和十五年(一九四〇年)	一橋新聞	第三〇〇號
支那經濟の虛實	"	科學主義工業	一月號
大陸へ進出するものへ(對談)	"	文藝春秋現地報告	二月號
汪政權成立以後の課題	"	中央公論	二月號
總力戦下の揚子江	"	文藝春秋現地報告	三月號
遷都政權	"	"	四月號
和平建國の政治秩序	"	改造	五月號
法幣の不安と圓域	"	文藝春秋現地報告	六月號
上海と第三國勢力	"	"	七月號
據點を上海に置き	"	大阪朝日新聞	八月六日
現地新體制確立の急務	"	文藝春秋現地報告	九月號
一億弗對蔣借款と上海	"	"	十二月號

一橋論叢 第二十卷 第三・四號

昭和十七年（一九四二年）

中央公論 六月號

大東亞交易の思想
根本課題の解決

" " " "

東京日々新聞 六月二十七、二十八日

"

" " " "

大阪毎日新聞 六月二十九、三十日

支那事變の意義

" " " "

報知新聞 六月二十八、二十九日

法幣小觀

" " " "

東京日々新聞 六月

營團經濟の倫理

" " " "

新經濟 七月號

現代の經濟哲學 八四頁

" " " "

實業之日本社「日本國家科學大系」經濟學
九月五日發行

航空隨想

" " " "

日本產業經濟新聞 九月十一日

支那・上海の經濟的諸相

" " " "

岩波書店 十月二十六日發行

昭和十五年より同十七年の間に發表した論稿三十六篇輯録、「支那の現實と日本」の續篇、序文四頁本文二八三頁 第一刷
七、〇〇〇部發行

世界史の轉換

" " " "

エコノミスト 十月號

世界文化と大東亞

" " " "

創造 十月號

「列國對支投資概要」編纂者序五頁

昭和十八年（一九四三年）

東亞研究所

大東亞戰爭に於ける支那問題

" " " "

中央公論 五月號

營團經濟の倫理

" " " "

大理書房 九月二十五日發行

講演「營團の本質」その他十五篇輯録 序文八頁本文二七四頁 一五、五〇〇部發行

比島産業の將來

" " " "

東京・大阪朝日新聞 十月八、十日

東洋に還る新生比島の經濟

" " " "

同盟通信 第二八四二號

經濟上の自主獨立	昭和十八年(一九四三年)	東京毎日新聞 十一月十三日
東亞共榮圈建設の展開	" "	帝國大學新聞、十一月二十二日
戰力増強と營團	昭和十九年(一九四四年)	經濟毎日新年號、高島佐一郎博士記念論文集 「戰爭經濟と戰力増強」(昭和二十年)
今後の交易の問題	" "	海運 二月號
南方建設と物資交流の問題	" "	太平洋 二月號
構造の論理より觀たる營團	" "	統制經濟 二月號
道義經濟原則	" "	毎日新聞社「大東亞の建設」第五章
國家管理より經濟國家へ	" "	財政 十二月號
鬼頭仁三郎著「交易理論の基礎」	" "	一橋論叢 第十四卷第六號
「金政策の動向に関する調査」綜合報告	昭和廿年(一九四五年)	調査研究動員本部報告
世界經濟の安定	昭和廿一年(一九四六年)	世界經濟 一月號
激動期に處する日本經濟	" "	中央公論 二月號
日本貿易政策の針路	" "	商工 二月號
イェ・ヴァルガ「戰後世界工業發展の動向」とイ・ガイ	" "	協同出版社「戰後世界工業發展の動向」
「國際分業の問題」の解題	" "	外交評論 四月號
世界經濟に於ける自由と計畫	" "	世界經濟評論 十月號
社會主義と世界經濟	" "	東京工業大學新聞
價值論史斷想	" "	世界經濟 一月號
戰後世界經濟の形態	昭和廿二年(一九四七年)	世界經濟 一月號
經濟哲學の過去と現在	" "	一橋新聞 第三八三號

杉村廣藏博士主要著作目錄

近代社會の成立と資本主義	序文四頁本文四九頁	昭和廿二年(一九四七年)	支那省公民叢書(5)	四月一日發行
政治感覺が足らぬ	"	"	日本政經研究會「日本」	五月號
職業と人生	"	"	東洋經濟新報社「經濟隨想」	五月
世界貿易の構圖	"	"	外交評論	五・六月號
經濟哲學原理	序文四頁本文二一八頁	"	東洋經濟新報社「現代經濟學叢書」(5)	七月二十八日發行
輸出貿易の重點	"	"	夕刊新潟	七月三十日
平和の國、文化の民	"	"	時事通信社「商工人」	九月號
カント永久平和論について	"	"	一橋論叢	第十八卷第四號
社會主義の哲學	二一五頁(第四章 武藤光朗氏執筆)	"	夏目書店	十月二十日發行
經濟哲學概説	序文四頁本文一五〇頁	"	東洋經濟講座叢書第二三輯	十二月二十八日發行
國際聯合の經濟的基礎	"	"	法律新報	十二月號
世界經濟の機構と復興の問題	"	昭和廿三年(一九四八年)	世界經濟評論	二月號
カントと社會哲學	二五二頁	"	思案社	三月十五日發行
文化の問題としての經濟	"	"	思案	第九號
世界經濟安定の諸問題	"	"	社會評論社	四月一日發行
終戦後發表せる論稿十一篇を輯録、本文一八二頁	"	"	思案	九月號
資本主義の固定觀念としての貨幣(假題、絕筆)	"	"	一橋論叢	本號所載
左右田博士の學者的風格	"	"	"	"
西洋經濟學史序説	"	"	"	"